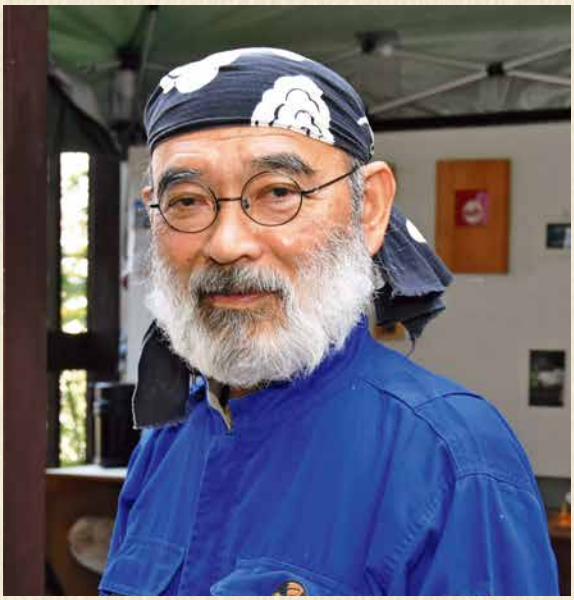
Shimada 2021 4 No.274 City Public Relations 広報しまだ

島田人物 Story

Shimadajin File #112

人の心に寄り添う地蔵を、この手で作り続けたい――

手彫りの石地蔵を、10年以上にわたり制作してきた土屋さん。自身の個展などをきっかけに出会った、さまざまな人との関わりを通して、石彫刻の奥深さと地域の魅力を発信しています。



彫刻家
土屋誠一（つちやせいいち）さん（金谷東二丁目）

【人の手で形作る石彫刻】

以前は、ガラス彫刻家だった土屋さん。50代前半から、手彫りの石彫刻を始めようと思い立ちました。

「最初に始めたのは、サンドブラストを用いたガラス彫刻。でも、機械的な物作りを続けることに疑問を感じ、立体的でどこか精神的な作品に憧れを抱くようになりました。そこで、ノミとセットウ（ハンマー）を用いた石彫刻を始めました。縁あって、島田の石工で『現代の名工』にも選ばれた、故・村田善彦（むらたよしひこ）氏に師事。朝から夜まで、石彫りに明け暮れたこともありました。最初は角張っていた石が、段々と丸みを帯びて形作られていく様子は、無機物に命を吹き込むようで面白いです。中でも地蔵は、古来から人々の暮らしにとても近い存在。日によって異なるその表情は、手彫りならではの魅力ですね」

【一人一人の会話を糧に】

これまで100回以上、作品展を開いてきた土屋さん。個展会場へ毎日のように顔を出し、訪れる人との関わりを大切にしています。

「2003年に初の個展を開催してから、県内外のさまざまな場所に出展しています。知人を通じて、イタリアの都市フィレンツェで大理石の地蔵を彫ったこともありましたね。何よりも大切にしていることは、作品を見に来てくれる人とのコミュニケーション。できる限り現場を訪れ、作品などについて一人一人と会話を楽しみます。人それぞれの感動やこれまでの経験に触れることで、私自身も心が豊かになるんです」

【楽しく地域を盛り上げる】

人の心に寄り添う地蔵を作りたいと意気込む土屋さん。自身も楽しみながら、活動を通して地域を盛り上げていきたいと話します。

「このまちをにぎやかにしたいと思い、自分にできることは何かを考えました。そこで5年ほど前から、大井川右岸側の蓬莱橋（ほうらい）のそばに、ミニギャラリーを開店。縁結びにちなんだ優しい表情の地蔵を彫ったり、観光客に志太地域の情報などを伝えたりしています。そこで知り合えた人が、個展を訪れてくれることもありますよ。さらに、蓬莱橋や川越し街道などの魅力を広く伝えるために、景観を生かしたイベントを開こうと考え、有志を募って『しまだきものさんぽの会』を発足。着物の似合う『映（ば）える』まちであることも伝えながら、石彫刻の魅力を楽しく広めています」

「こんにちは。ぜひ手に取って見てね」と、出店で地域の魅力を伝え続ける土屋さん。今日も、ノミとセットウを手に取り、古里に小気味良い音を響かせます。

大井川右岸側の蓬莱橋そばで観光客を見守る地蔵（土屋さん制作）

発行／編集 島田市市長戦略部広報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
https://www.city.shimada.shizuoka.jp
0547-36-7118

ミックス 紙 FSC FSC® C021550